

第4回 ～総括～

【第1回会議において】

① 健康づくりセンターの実施事業等

- 健康づくりのコアセンターとしての機能等
 - 運動施設等とのネットワークづくりなど、当初の設置目的が達成されていない
- 調査・研究
 - 大学や研究機関等へ委託可能ではないか
- 施設利用状況
 - 利用者が減少しているものや、一部の層に偏っているものもある
- 医療機関や民間事業者等の成長
 - 健康度診断・健康教室等について、市が担うべきものを検討する必要がある
- 保健福祉局（本庁）、保健所等との役割分担
 - 重複事業など、市民に分かりづらい面や事業運営上、非効率な面がある
- 戦略性
 - 総花的に幅広く事業展開しており、戦略性に欠けている

★ 健康づくりセンター事業の仕分け（充実・継続・移管・委託・廃止等）が必要である

② 本市の取り組み（生活習慣病対策）における課題

- 効果的な普及・啓発の実施
 - 日々の健康づくり実践者をいかに増やしていくかという視点を重視すべき
- 特定健診受診率の向上
 - 健診受診率が低い（H20：15.2%，H21：16.7%）
- 特定健診受診後の対応
 - 特定保健指導実施率が低い、要医療者が必ずしも医療へ結びついていない
- 生活習慣病患者に対する重症化予防（三次予防）
 - 通院中断者に対する受診勧奨や生活改善指導は、行政では特に行っていない
- 戦略的な疾病対策
 - 市民のQOLの維持や医療費適正化の観点から、「糖尿病対策」の充実が必要

「本市の取り組み（生活習慣病対策）における課題」から見てきたもの・・・

- これまでの市の施策は、ポピュレーションアプローチとしての健康づくりの普及・啓発等の一次予防が中心であったが、これからはハイリスクアプローチとしての二次予防（健診・検診）や三次予防（生活習慣病の重度・合併症化を防ぐ）にも力を入れていく必要がある。

★ 二次予防（健診・検診）や三次予防（生活習慣病の重度・合併症化を防ぐ）の充実強化は重要な課題である

【第2回会議において】

① 新たな健康づくりセンター機能等について

ア センター機能再構築の方向性

「健康づくりの中核施設」→「医療と緊密に連携した生活習慣病予防の拠点施設」

イ 新センターの大きな2つの柱

- 健診（検診）機能の強化
- 糖尿病を中心とした生活習慣病患者の重症化予防 ※新規事業

ウ 本庁（保健福祉局）、保健所等との役割分担の見直し

- 健康づくりの調査・研究や教育・研修機能については大学・企業等の活用や本庁等への移管を検討する。
- 健康づくりの普及・啓発については、本庁を中心として、健康づくりセンター、保健所と連携しながら、企業・大学や民間のスポーツクラブなどを巻き込んで社会全体で推進していく。（健康づくりセンターは、生活習慣病予防対策を主体）
- 地域に根ざした健康づくりの普及・啓発は引き続き保健所や地域団体等を中心に推進する。

★ 健康づくりセンターについては、医療と緊密に連携した生活習慣病予防の拠点施設として、「健診（検診）機能の強化」（二次予防）や「糖尿病を中心とした生活習慣病患者の重症化予防」（三次予防）を柱に、事業内容を再構築する。

ターゲットを絞るなど、大筋の方向性としては良いと思われるが・・・

<疑問点>

- ◎ 理念としては理解できるが、実現可能性としてはどうか。

② 現センター事業のあり方について

<事業に関する意見等>

(1) 健康づくりの調査・研究

- 事業の仕分けという面を考えれば、大学等の研究機関への委託で対応可能ではないか。
- 研究ということが目的であれば、最終目標を明確にデザインして取り組んでいかなければならないと思うが、それはやはり大学等のしっかりとした研究機関でなければ難しいように思う。

(2) 健康度診断

- 内容的にはレベルは高いが、料金も8,000円と高い。
- 運動面に関する指導・助言としては、フィットネスクラブ等でも行っているという面はある。

(3) 健康教室

○どの教室を残していくべきかという判断は難しい。土日の対応の必要性というのはあるだろうし、今後、医療機関と連携してPRを強化しても利用状況が伸びないようなものは、費用対効果なども考慮して廃止などを検討する必要もあるかもしれない。

(4) 健康づくり指導者の養成、研修等

○医療機関と緊密に連携した生活習慣病予防の拠点施設ということであれば、今後は医療関係者の研修など必要と思われる。

(5) 図書資料室

○どこでも返却ができるよう、市の総合図書館や各区図書館等との連携を図ることができれば、市民の利便性は大幅に上がり、利用者は増えると思われる。もちろん、もっとPRを強化する必要もあるが。

○現状のシステムのままでは、利用者も年々減少しており、費用対効果では問題があるかもしれない。仮にセンターでは継続して設置しなくても、総合図書館で一体的に展開するという方法もある。

(6) ウェルネスストリート

○ウェルネスレストランについては、子どもへの食育もそうだが、今後、糖尿病患者等への栄養指導にも役にたつ可能性はあると思う。

○今のような疑似体験では効果は疑問であると思う。本当のレストランで食事しながら同様の体験ができれば、そして同時にパンフレット等を配布して指導まで行うのであれば効果はあると思うが。

(7) 特定健診・特定保健指導

○特定健診・特定保健指導の休日や夜間実施というのはぜひお願いしたい。特に仕事の関係などで平日は受診できないという意見は良く聞く。今後、受診率を上げていくためにも、医療機関を補完する機能として必要だと思う。

(8) 運動指導士の派遣

○保健所に運動指導士を配置すれば独自に対応は可能。

(9) 健康づくりの普及・啓発

○事業自体は市全体としては大事なことであり、引き続き取り組む必要があると思うが、本庁や保健所との役割分担も含めて検討する必要がある。

(10) ホール、講堂、プラザ等

○ホール等については、健康づくりとは少し趣旨が異なるかもしれないが、利用状況は良好であり、当然残していくべきと思う。

(11) 糖尿病を中心とした生活習慣病患者の重症化予防 ※新規事業

○糖尿病を中心とした生活習慣病患者の重症化予防については今後必要だと思う。

<その他の意見等>

○事業の中には、どの程度の経費がかかっているのか分からなければ判断できないものもあるのではないかと。良い事業もたくさんあると思う。料金体系を変えたり、もっとPRを図ればさらに利用者が増えるものもあるだろうし、この資料だけで判断するのは難しい。

【第3回会議において】

① 機能再構築の方向性等

- 健康づくりセンターについては、医療と緊密に連携した生活習慣病予防の拠点施設として、「健診（検診）機能の強化」（二次予防）や「糖尿病を中心とした生活習慣病の重症化予防」（三次予防）を柱に事業内容を再構築し、一次予防から三次予防までを包含する「総合的な生活習慣病予防対策」を推進する。
- 新たなセンターが市民に有意義な施設として効果的に機能するために、その具体的な手法のひとつとして、糖尿病を主体とした、行政とかかりつけ医とのネットワークシステム「糖尿病患者等支援システム（案）」を構築する。

- ★ このシステムにおいて重要なのは、医療機関との連携をどのように進めていくか。地域のかかりつけ医に、このシステムについて理解と協力を得る必要がある。
- ★ 最初からシステム構築に大きく費用をかけて全市的に一気に進めるよりは、最初は試行的に少しずつ初めてはどうか。（このシステムにおいて重要なのは、対象の市民が利用してくれることである。）



◎ システム構築にあたって、地域医療機関の理解や協力を得る必要があるなど様々な課題もあるが、市民のQOL（生活の質）の維持や医療費適正化の観点など、見直しの「方向性」としては必要かつ望ましいものと考える。

② 現センター事業のあり方

- ★ どの事業を残すべきかということについて、この健康づくりセンター見直し委員会の中で結論付けることは難しい。
- ★ これまで実施してきた事業の中には、利用者数は少なくとも市民にとっては有益な事業も多く、今後PRの工夫等により課題が克服できる事業もあるのではないかと。
- ★ 可能であれば、新たな「糖尿病患者等支援システム」の構築や健診機能の強化等については、別枠で新たな予算の確保に努めていただきたい。
- ★ ただし、健康づくりセンターが抱える課題については一定の整理が必要であることは理解できる。結果的に、今後市において「事業の選択と集中」を検討する場合は、事業の将来性も含め、次のような視点を踏まえた検討が必要だと考える。

1. 「医療と緊密に連携した生活習慣病予防の拠点施設」として関連性が高いかどうか。
2. 市民ニーズが高いかどうか。
3. 費用対効果が高いかどうか。
4. 保健所や民間での実施や、他団体等への事業委託では十分な効果が期待できないものかどうか。
5. 他では実施されていないものであって、必要性があると判断されるものかどうか。

◎ 健康づくりセンター見直し委員会では、各事業の今後のあり方については、大きな方向性や検討にあたっての考え方で。